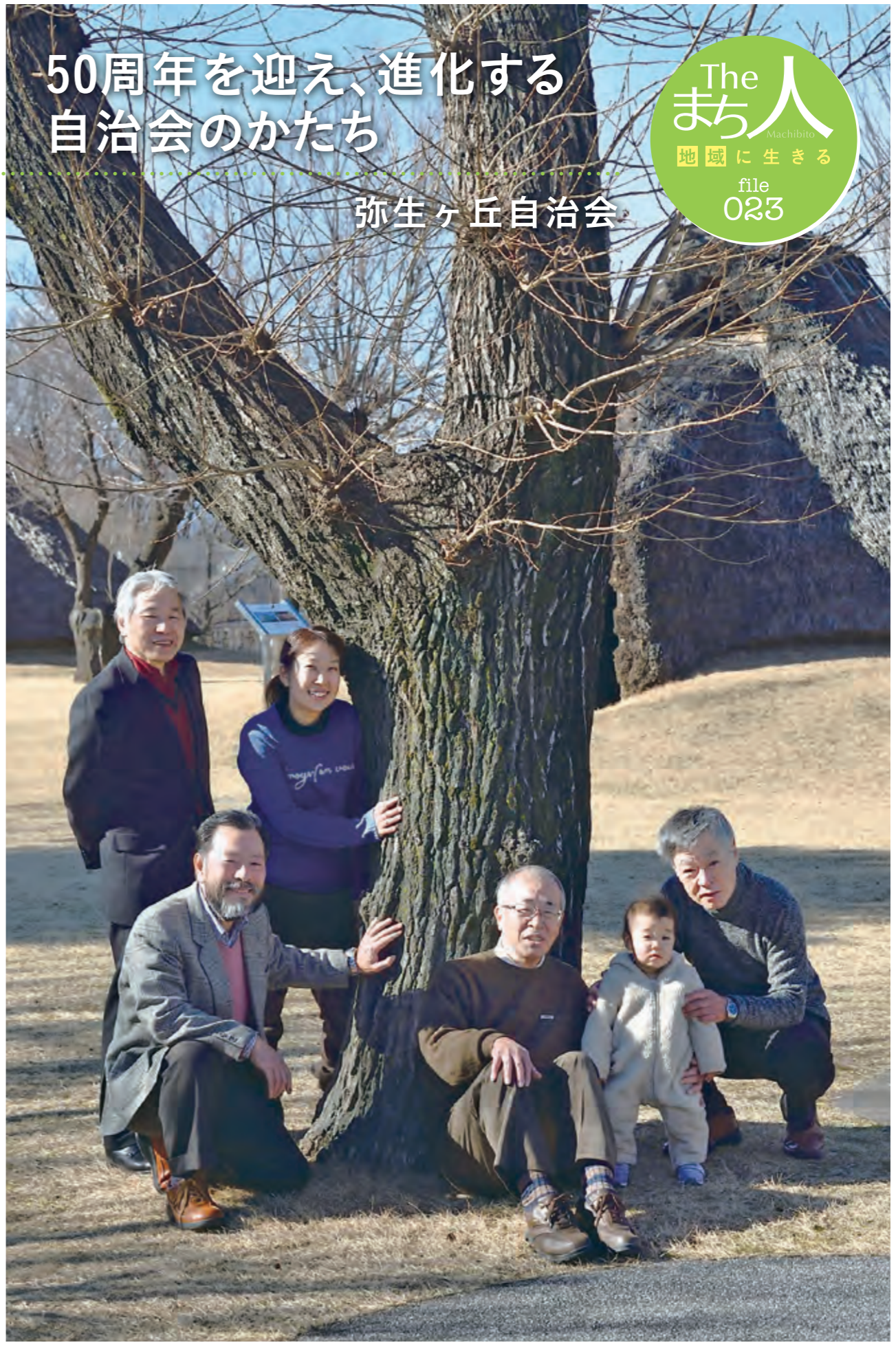


50周年を迎え、進化する 自治会のかたち

弥生ヶ丘自治会



The Machibito — Chihiko ni Ikiru

本町田真之山ふるさとの森と本町田宿ふるさとの森、2つのふるさとの森に挟まれた本町田の弥生ヶ丘自治会は昭和42年12月に創設された。緑が豊富で、エリア内には町田市立博物館と本町田遺跡公園、2つの文化施設もある。一戸建ての住宅全348戸で構成され、自治会加入率は町田市の平均加入世帯率53%を大きく上回る97%という驚異的な数字を誇っている。

市内では近年資源ゴミの持ち去りが相次いでいるようですが、ここではそういった犯罪は最近は起きていません。そう話すのは会長の丹田さんだ。

会

長ほか自治会の幹部は仕事を定年退職した男性が多いが、その中に小さな赤ちゃんを連れた若いママがいる。弥生ヶ丘自治会では以前から賀寿を迎える会員にお祝い金を贈呈していたが、昨年の総会で出産時のお祝い金が承認され、今では自治会内で赤ちゃんが生まれるとお祝い金が贈呈されるようになった。

戸建て世帯だけで構成されているせいか、自治会への参加意識や防犯意識は非常に高いという。「散歩する時もお揃いのベストや禪をつけて歩いています。自治会の人ほとんど顔見知りですから、怪しい人はすぐ分かるので

「お祝い金を頂いて嬉しかったですね。あと、自治会月報に赤ちゃん誕生のお知らせが掲載されるので、小さいお子さんごとのお宅に

様

々な同好会があるのも弥生ヶ丘自治会の特徴だ。自治会館の中には卓球台やカラオケ、囲碁や麻雀卓もある。リズム体操や麻雀の会、パッチワーク同好会な

ど誰でも参加できる会と、60歳以上の会員でつくる弥生クラブには、旅行やカラオケ、輪投げなどの集まりがある。町トレやゲートボールでは会員相互の親睦を深めるだけでなく、身体や頭を動かすことで無理なく健康を維持できるメリットもあるそうだ。

加

入率も高く、会員相互の交流もうまくいっているが、中年層の参加が少ないこと、高齢化が課題だ。ただ、この街には若い母親が子連れで参加できる雰囲気があり、今年の小学校新1年生も10名超えという状況がある。2世代、3世代で参加できる新しい自治会の形が出来るかもしれない。

「若いお母さんたちが増えてきて、僕たちも赤ちゃんにはとても癒されているんですよ。本町田遺跡公園は格好の遊び場にもなりますし。」住環境を住民自らで守ろうという意識が自然と根付いている弥生ヶ丘自治会の歩みは、半世紀を超え新しい局面を迎えている。



A. 親子連れで参加できる未就学児の会。自治会館には子どもたちのおもちゃもたくさん B. 同好会の一つ、ピンポンの会は平成14年、健康増進を目的に市の助成を受けて作られた C. 防災訓練では子どもたちも消防士さながら放水体験 D. 飯田良隆さんと山田牧子さん、まだ1歳の愛菜ちゃん E. 会長の丹田公和さん F. 村上憲一さんと蘆田勝さん

加入に関するお問い合わせ 町田市町内会・自治会連合会 042-722-4262